

地域連携 News

Japanese Red Cross Otsu Hospital

2022
9
vol.13

救命救急センター内 CT(80列)を導入

初秋を迎え、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

2022年8月1日より、当院の救命救急センター(ER)におきまして、キャノンメディカルシステムズ社製の80列X線CT診断装置(Aquilion Prime SP)が新規に稼働を開始いたしましたことをご報告いたします。

従来のCT撮影室はERから少し離れた場所にあり、救急患者の撮影や近年では特にCOVID-19患者の受入れ時の撮影にあたり、動線上の問題がありました。新たに救命救急センター内にCT装置を設けたことでこの問題が解消され、病院スタッフはもとより患者の負担軽減にも寄与しています。

私が研修医だった2000年代前半はMultidetectorCT(MDCT)の黎明期でしたが、当時研修先のCT装置は4列で肺の撮影には40秒近く息止めが必要でした。お年寄りの方や肺炎患者の撮影に非常に苦労したことを思い出します。近年では64列以上のMDCTが当たり前となり、頭の先から足先まで10秒前後で撮影できるようになりました。

CTは重症患者にとって「死のトンネル」と言われた時代から、既に「CTFirst」と言われる時代に移り変わっています。



さらに近年驚異的な進歩を見せるAI(Artificial Intelligence)は画像機器の分野にも多大な影響を及ぼしています。今回導入したCT装置にも、DL(Deep Learning)を用いたAIによる画像再構成技術が組み込まれており、従来より低線量にも関わらず、鮮明な画像が取得可能となっています。画像読影でもAIによる脳動脈瘤や肺結節、骨転移などの自動抽出技術が商業製品化されています。そう遠くない将来、「CTって、昔は人間が読んでいたらしいぜ」と言われる時代が来るのかもしれませんが。

少々脱線しましたが、CT装置が実質1台増えたことで、病院での検査待ち時間も軽減されるのではないかと期待しております。

今後ともご紹介の程、よろしくお願い申し上げます。

第二放射線科部長 川原 清哉

プロフィール

卒年:平成16年

資格等

- ・日本医学放射線学会放射線診断専門医
- ・日本医学放射線学会研修指導者

